「指導」と「評価」の一体化について

～ICTの活用を考える～

本校でのICT活用状況

（1）本校で導入している一人一台端末

Chromebook（1，2年生ともに）

Chromebook 2nd Gen
Lenovo 300e（82CE0009JP）

（2）本校でのapp活用状況

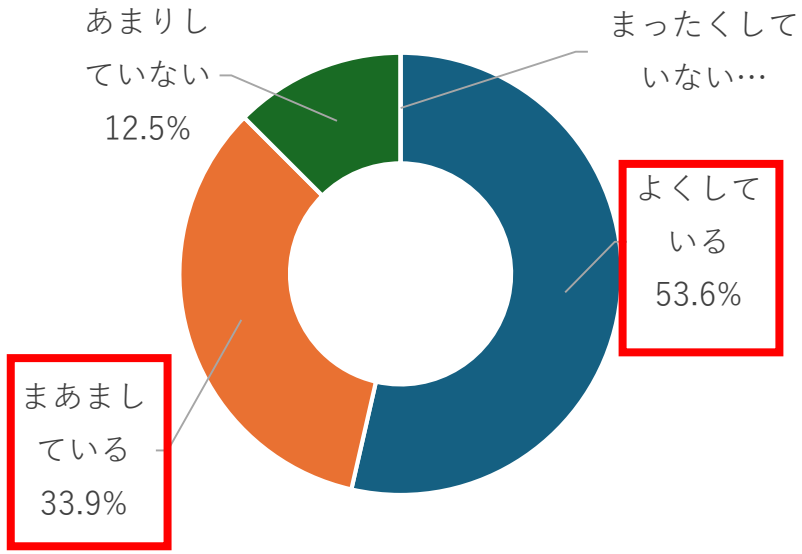
Google apps	説　明	本校での使用方法
Classroom	課題の作成、配布、採点をペーパーレス化、教師と生徒の間でファイルを共有する過程を合理化する、簡素化することを目的	連絡 教材配布 課題の配布回収　など
Forms	アンケート作成・管理ソフトウェア	小テスト、テスト 欠席連絡の入力 アンケート調査の実施　など ※情報セキュリティレベルの高いものを除く
スプレッドシート	ブラウザ上で表計算が可能となるソフト	欠席連絡の集計 授業での活用　など
ドライブ	オンラインストレージサービス	各種会議の資料共有 ※県のガイドラインに則って許可された資料のみ

普段からよく生徒も職員も活用している。

（3）授業するクラスの一人一台端末の活用状況

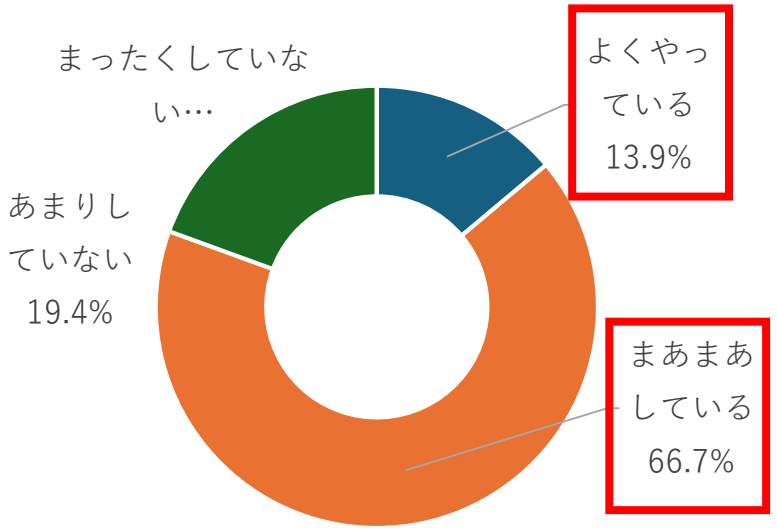
【1回目：6月実施】

30	19	7	0	56
53.6%	33.9%	12.5%	0.0%	100.0%



【2回目：12月実施】

25	24	7	0	56
44.6%	42.9%	12.5%	0.0%	100.0%



（生徒アンケートより）

8割～9割は自宅ならびに学校で活用している。

授業テーマ

1. 新時代に対応した生徒の能力の育成につなげる
   ICTを活用した授業

2. 新時代に対応した生徒の能力育成につなげる教科
   横断的または探究的観点を取り入れた授業

新時代に対応した生徒の能力の育成につなげる
ICTを活用した授業

取り組むにあたって…

・知識・技術

・思考・判断・表現

・主体的に取り組む態度

評価方法が多く、基準作りも難しい…

焦点化して取り組む

⇒『グループワークの評価』について

従来のグループワーク

- テーマに対して生徒たちが個人で考える
- 生徒たちがグループで協議する
- グループで結論を導き出し、発表

従来のグループワーク

テーマに対して生徒たちが個人で考える

↓

生徒たちがグループで協議する

↓

【課題】

・協議内容をリアルタイムで可視化できていない

・他の生徒との関わり方を把握できない　など

グループで結論を導き出し、発表

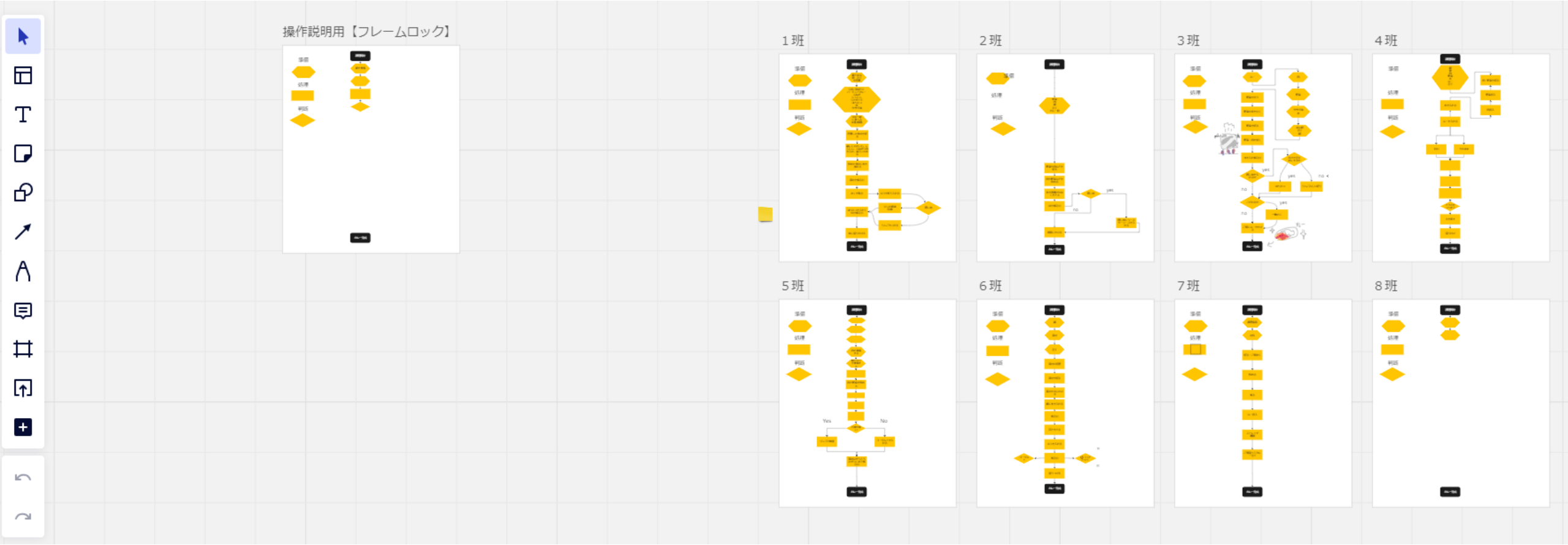
従来のグループワーク

- テーマに対して生徒たちが個人で考える
- 生徒たちがグループで協議する
- 協働学習の様子と内容の可視化
- グループで結論を導き出し、発表

従来のグループワーク

- テーマに対して生徒たちが個人で考える
- 生徒たちがグループで協議する
- 協働学習の様子と内容の可視化 ⇒ ICTの活用
  - Miro
  - FigJam
- グループで結論を導き出し、発表

Miroを使用した授業（全体画面）



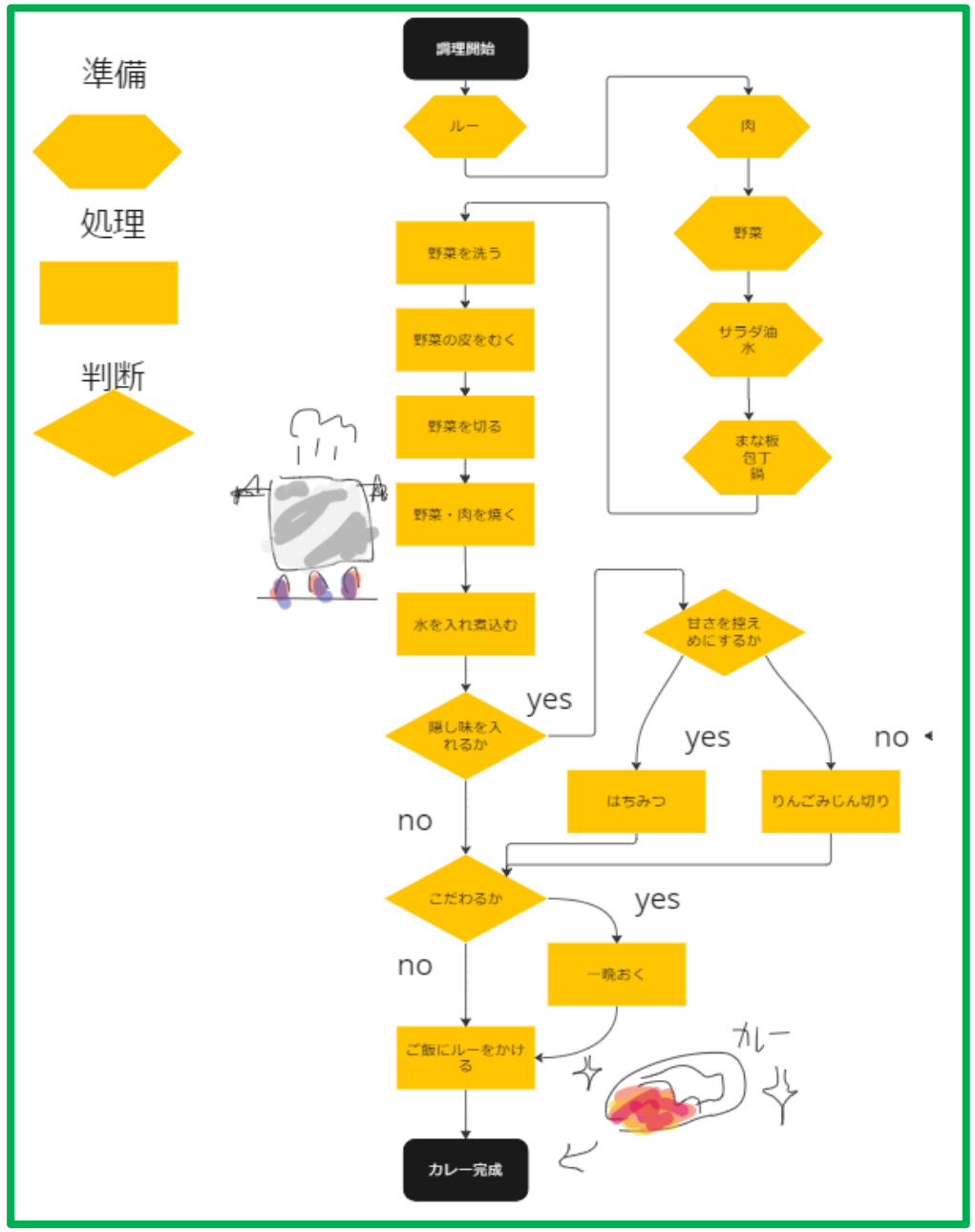
Miroを使用した学習（操作説明）

事前に作成した動画をGoogleClassroomへアップロード

「授業の効率化」、「生徒たちで教え合う環境づくり」のため、

授業中に教師が話す時間をできるだけ減らす工夫をした

Miroを使用した学習



- 思考の過程が可視化できる
- 席の離れた生徒とも協働作業が可能となる
- 全体のグループの動きをリアルタイムで把握できる
- 遊び心をもって授業に取り組める

Miroを使用した学習

グループワークを見取る

⇒ ルーブリックに基づき、机間指導を行いながら評価

ルーブリック評価表

日付　9月　25日　4限目

5段階評価	1（論理△・協働△）、2（論理○・協働△or論理△・協働○）、3（論理○・協働○）、4（論理◎・協働○or論理○・協働◎）、5（論理◎・協働◎）

番号	氏名	ふりがな	論理的思考			協働性			5段階評価
			◎	○	△	◎	○	△	
			結論から考えることができ、プリントに分かりやすくまとめている	結論から考えることがだいたいできており、プリントに記入している	結論から考えることが難しいが、プリントに記入している。記入しようとしている	班員の話をしっかり聞き、自分の意見も述べることで闊達な話し合いを行えている。	班員の話を聞き、話し合いに協力している。	話し合いに協力する気がない。	
1									
2									
3									

新時代に対応した生徒の能力育成につなげる教科横断的または探究的観点を取り入れた授業

教科横断的視点を取り入れた授業

・「農業」、「工業」、「商業」、「福祉」からなる総合制専門高校

- 地域農業科
- 機械科
- 電気科
- 商業マネジメント科
- 情報ソリューション科
- 福祉科

学科間連携で授業を実施できる!!

教科横断的視点を取り入れた授業

情報ソリューション科で学んでいることを活かす

アントレプレナーシップ（販売活動も）、情報スキル　等

地域農業科

機械科

電気科

商業マネジメント科

情報ソリューション科

福祉科

「地域農業科」×「電気科」×「情報ソリューション科」

教科横断的視点を取り入れた授業

「地域農業科」×「電気科」×「情報ソリューション科」で学んだことを使ってどのようなことができるだろうか？

（1）地域農業科へ取材

（2）電気科へ取材

一人一台端末を持参しての取材

【使用アプリケーション】

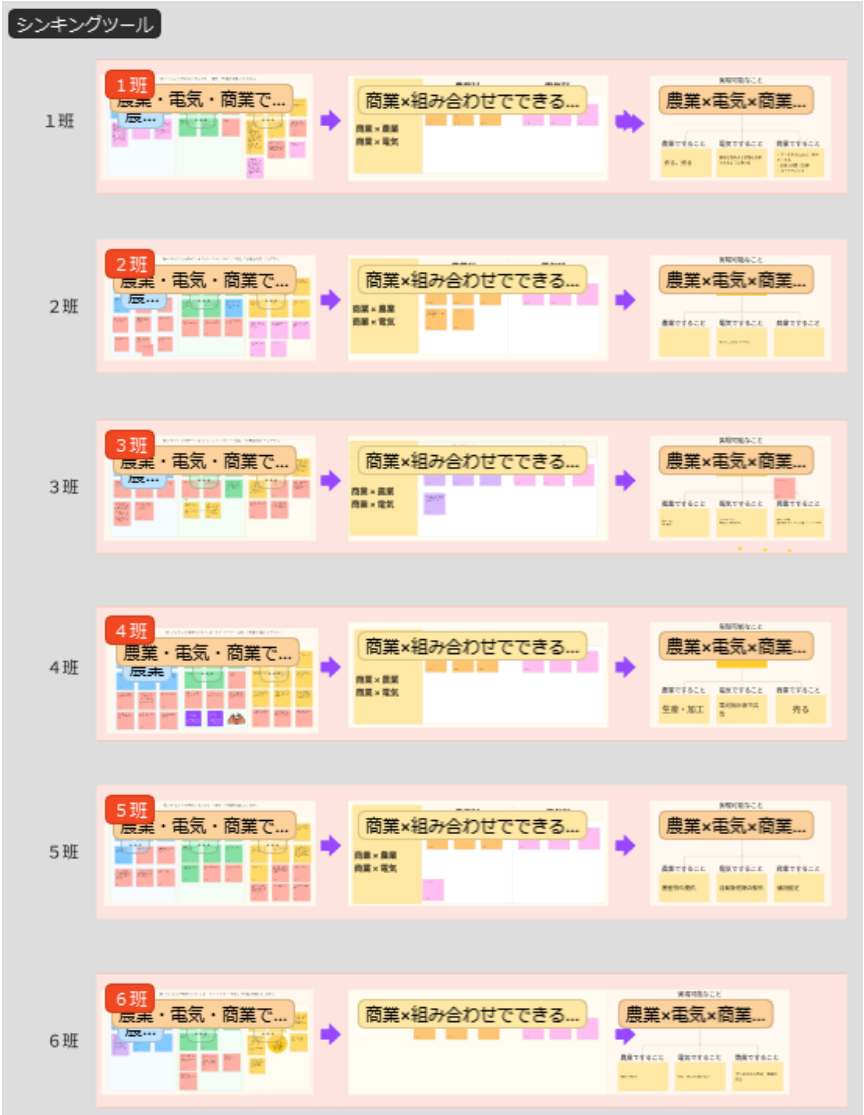
・カメラ（静止画・動画撮影）

・Googleドキュメント（取材記録）

FigJamで撮影した資料を共有

教科横断的視点を取り入れた授業

【全体画面】



FigJamを使用した学習

・閲覧したい動画をクリックすると、すぐに再生する。
専用のソフトなどは不要。

・動画と静止画をこのように共有しておくことで、いつでも皆で撮影した動画が閲覧可能になる。
※動画は100MB未満（25秒程度）

・思考の過程が可視化できる

・席の離れた生徒とも協働作業が可能となる

・全体のグループの動きをリアルタイムで把握できる

・遊び心をもって授業に取り組める

FigJamを使用した学習

グループワークを見取る

⇒ ルーブリックに基づき、机間指導を行いながら評価

ルーブリック評価表

日付　１１月　１日　４限目

５段階評価　1（論理△・協働△）、2（論理○・協働△or論理△・協働○）、3（論理○・協働○）、4（論理◎・協働○or論理○・協働◎）、5（論理◎・協働◎）

番号	氏名	ふりがな	主体性			協働性			５段階評価
			◎	○	△	◎	○	△	
			自分から意見を述べている	人から促されて意見を述べている	意見を述べることができない	班員の意見を聞き、まとめようとしている	班員の意見を聞くが、まとめには消極的	班員の意見も聞かないし、まとめも行わない	
1									
2									
3									

研究実践まとめ

Ⅰ.成　果

【評価について】

・オンラインツールを活用することで、従来のグループワークの課題を概ね解消できた。

【ICT・教科横断的授業】

・ディジタル教材を使用することで、学ぶ意欲や姿勢の向上につながった。

・話し合いに協力するようこちらが促すことなく、自分たちで話し合いを積極的に行っていた。

・自分から積極的に意見をすることが苦手な生徒が、ディジタルの付箋などを使うことによって意見することができていた。

・学科横断的な学習をすることで、ものの見方・とらえ方の視野が広がっている生徒がいた。

・他学科の先生方にも教室に来ていただき、各学科の取り組みについて授業実施していただいた。生徒たちはいつも以上に真剣に考えることができていた。

2. 課 題

【評価について】

・活動状況を正しく見取ることがかなり困難。
机間巡視中、通りがかったときなどは評価できるかそれ以外の時の評価が難しい。

・ルーブリック評価を生徒に公開したときに、自分の評価を上げるために、その取り組みを行っている生徒が存在する。

【ICT・教科横断的授業】

・生徒のICTに関する知識・技能の向上

・インターネット回線の強化

・授業教材をGoogleClassroomなどに残しているが、生徒たちが活用しているか検証が必要